

## 草津白根山

○火山活動度レベル（平成 18 年 10 月）

1（静穏な火山活動）

○概況（平成 18 年 10 月）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○噴気の状態

逢ノ峰（湯釜の南約 1 km）に設置してある遠望カメラでは、湯釜火口縁を超える噴気は観測されませんでした。



図 1 ※ 草津白根山 山頂付近の状況（2006 年 10 月 18 日 東上空から撮影）

※この資料は気象庁のほか、陸上自衛隊第 12 旅団、東北大学、東京大学、京都大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。  
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○調査観測の結果

16日に実施した観測では、湯釜北方斜面の地表面温度分布<sup>1)</sup>に特段の変化はみられませんでした(図2、図3)。

噴気孔③は前回(2006年6月7日)に比べて噴気活動がやや強まっており(図3)、噴気温度は93℃と前回の観測(86℃)に比べてやや上昇していました(図4)。前回の観測で新たに確認した噴気孔①、②の状況には、特段の変化はみられませんでした(図3、図4、図5)。



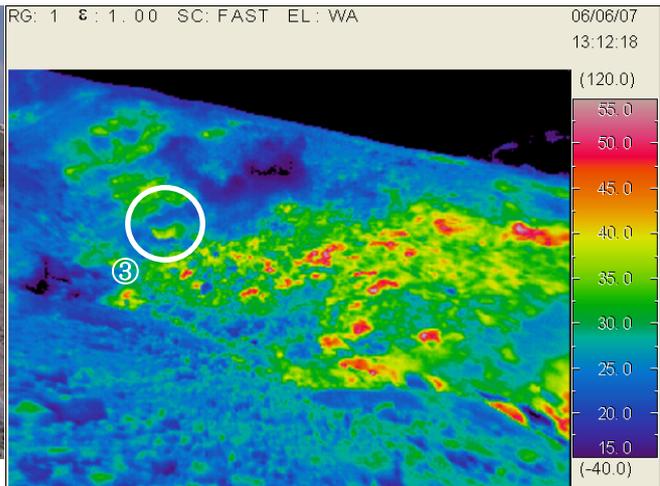
1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

図2 草津白根山 表面温度観測範囲

○ : 湯釜北方斜面の赤外熱映像観測領域  
 → : 撮影方向



2006年6月7日観測実施



2006年10月16日観測実施

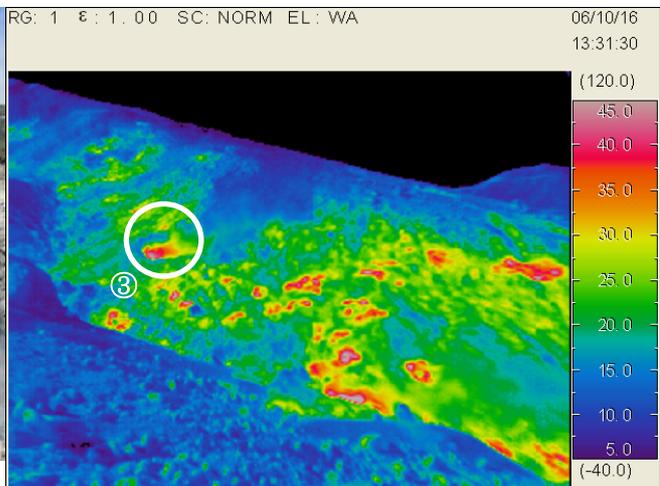


図3 草津白根山 湯釜北方斜面の噴気の状態と温度分布

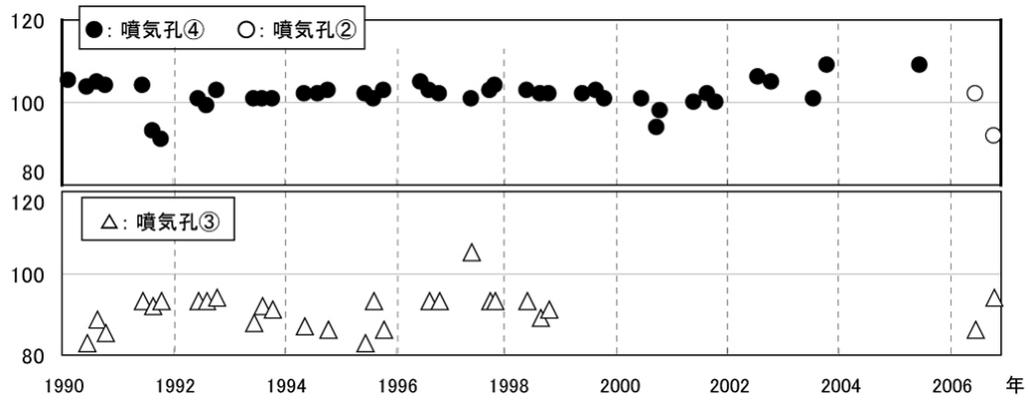


図4 草津白根山 湯釜北方斜面における噴気孔の最高温度  
注) 各噴気孔の番号は図3、図5に対応



図5 草津白根山 前回の観測で新たに確認した湯釜北方斜面の噴気孔の状況 (2006年10月16日)  
注) 各噴気孔の番号は図3、図4に対応

○全磁力観測による熱の状況

全磁力連続観測<sup>2)</sup> 及び9月 26～27 日に実施した全磁力繰り返し観測<sup>2)</sup> によると、湯釜付近の地下では冷却を示す変化が継続しています (図 6、図 7)。

2) 火口の北側観測点で全磁力値に増加傾向 (図 7、8 で上向き)、南側観測点で減少傾向 (図 7、8 で下向き) がみられた場合、火口直下での温度上昇があると考えられます。

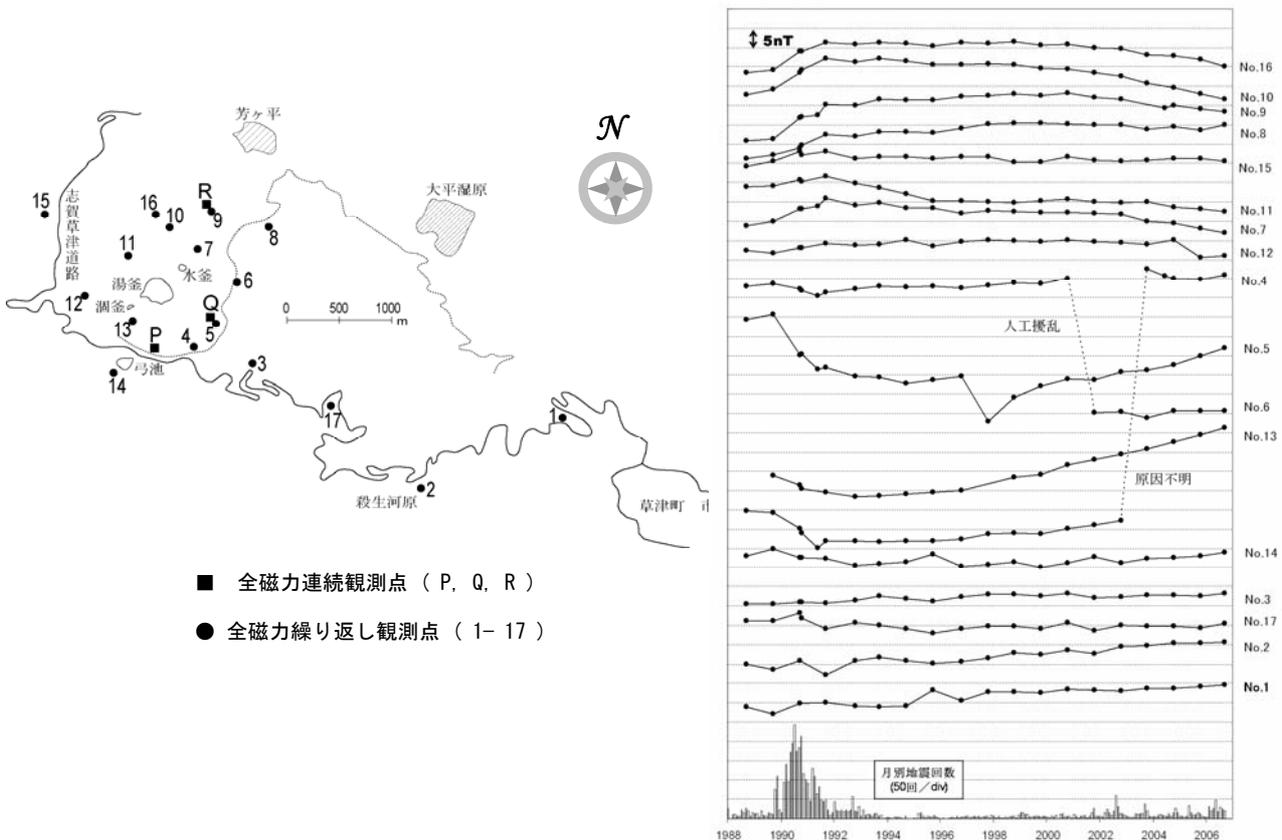


図 6 草津白根山 全磁力観測点配置図および全磁力繰り返し観測の結果

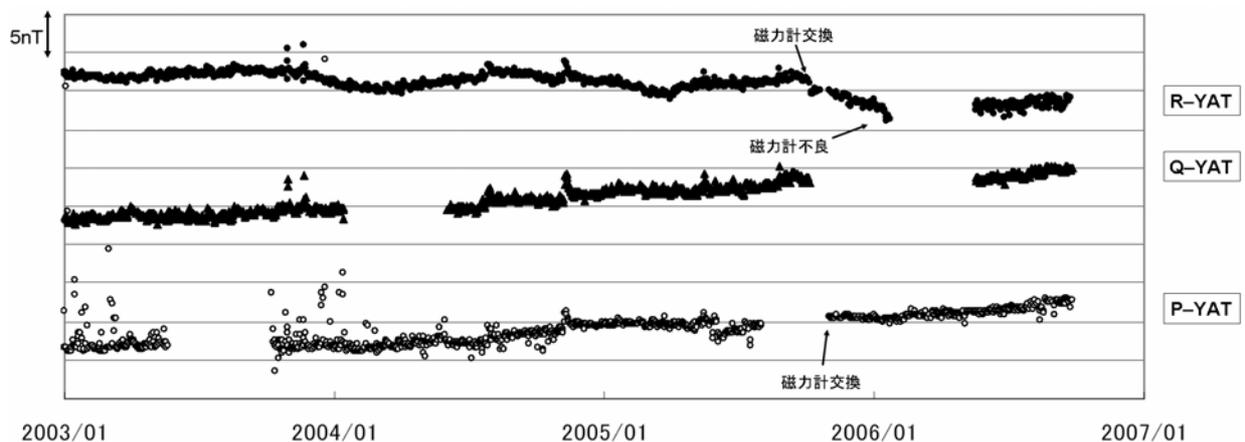


図 7 草津白根山 全磁力連続観測の結果

○地震及び微動の発生状況

火山性地震の発生回数は0～6回と少なく、静穏に経過しました（図8-①）。火山性微動は観測されませんでした。

○地殻変動の状況

G P S 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした（図8-②③④）。

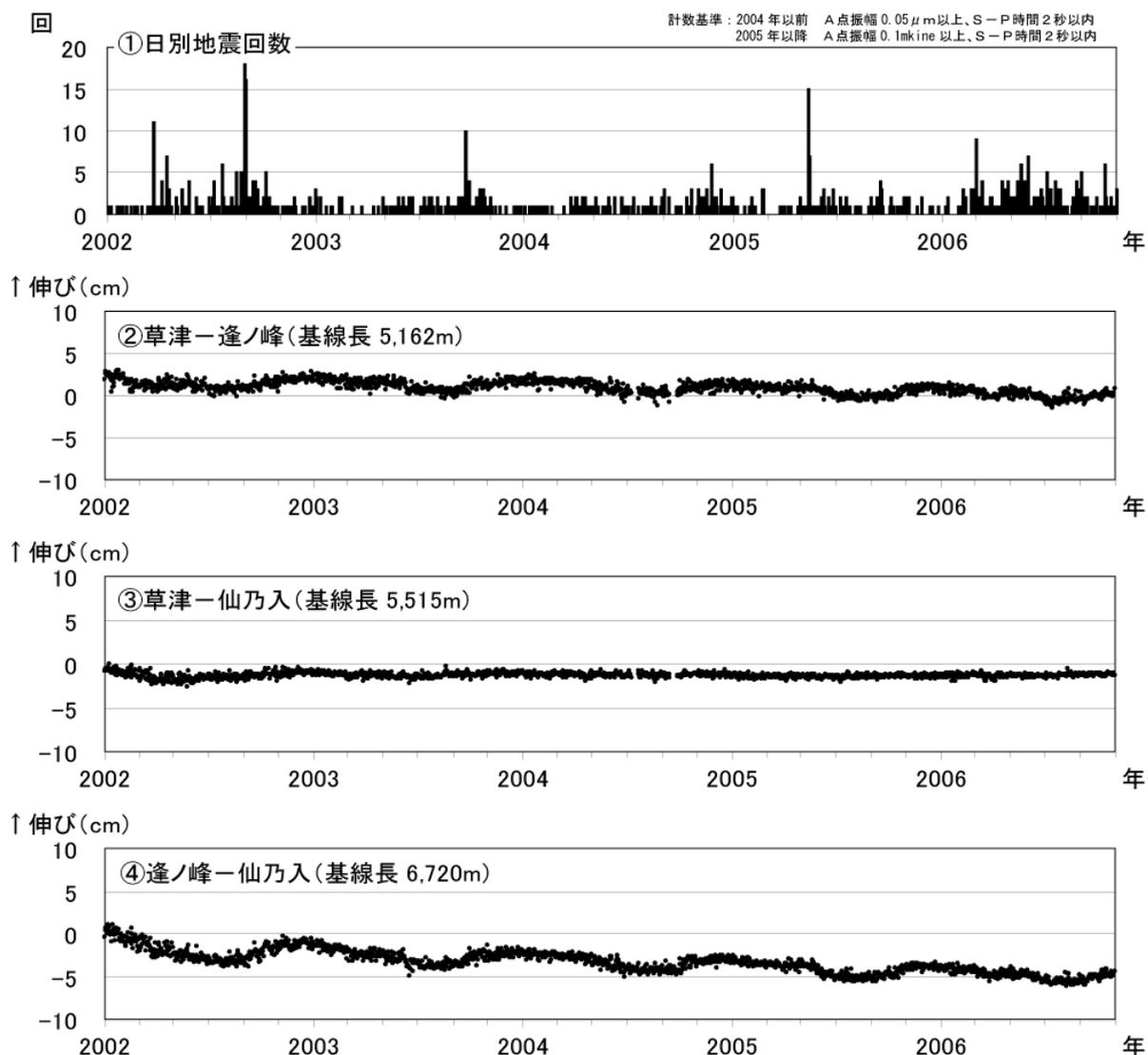


図 8 草津白根山 最近の火山活動の推移（2002 年 1 月～2006 年 10 月）

① 日別地震回数

注) 2005 年に検対象波形を変位から速度に変更し、その前後で回数に差が生じないように計数基準を調整しました。なお、グラフでは 2004 年 5 月 19 日に草津白根山の北西約 10km 付近に発生した構造性地震は除外しています。

②～④ G P S 連続観測による基線長変化

基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

(②～④は図9のGPS基線②～④に対応しています)

○観測点情報

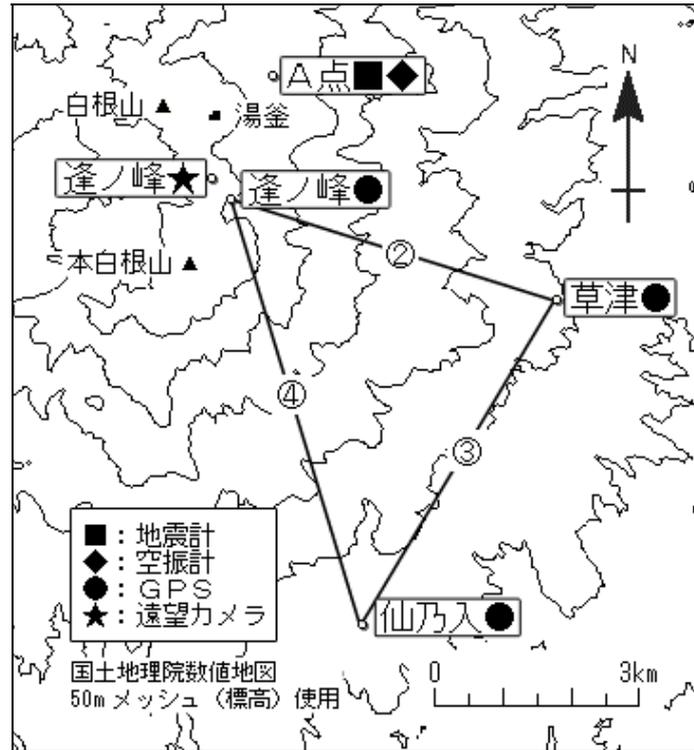


図9 草津白根山 気象庁の観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)  
GPS基線②~④は図8の②~④に対応しています。